

令和3年度協働事業提案制度提案概要
(提案企画書から転記)

事業名	クラーク精神普及事業
団体名	特定非営利活動法人 クラーク博士別れの地・久蔵の里普及促進会
事業概要	当会は、札幌農学校(現北海道大学)の初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク博士が、1877年(明治10年)4月16日アメリカへ帰国の際に、現在の「国指定史跡旧島松駅通所」がある島松沢で見送りに来た学生や職員たちとの別れで『青年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)』の名言を残し旅立ちました。この別れの言葉「Boys, be ambitious」の真意(クラーク精神)を史実として正確に北広島市の子供たちに伝えるため、当会の事業の一つとして北広島市の小中学校へ出向き、児童・生徒への普及講話活動を行っております。
協働の必要性	2018～2019年度に一部の小中学校へ出向きカリキュラムの調整をして頂き、Boys, be ambitiousの真意(クラーク精神)の講話を実施しました。しかしながら、学校のカリキュラムの策定期間に講話日程を調整して頂く事が難しいため、北広島市のご協力が必要と考えております。
役割分担	<input type="checkbox"/> 団体が担う役割 ① 講話資料の検討・作成 ② 講師の確保 ③ 学校への事前説明及び講話の実施(対象:小学校6年生、中学校1～3年生) <input checked="" type="checkbox"/> 市に期待する役割 中学校のカリキュラム策定時に、ご希望の学校毎に年間一コマの講話時間の確保をお願いします。
協働の効果	<input checked="" type="checkbox"/> 市にとっての効果 「アンビシャシティ」、「大志を懐く街」をキャッチフレーズにしている北広島市の子供たちが、夢と誇りをもって生き、健全な成長が期待できると考えます。
団体の目的	1877年(明治10年)4月16日に今の国指定史跡旧島松駅通所で、クラーク博士が見送りの学生たちに『青年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)』の名言を残した別れの地「島松沢」に馬上のクラーク博士像を建立して、その言葉の真意とクラーク博士の偉業(クラーク精神)を後世に正しく伝えるとともに、別れの地を中山久蔵が寒冷地所盲作(赤毛米)の栽培に成功・した地・久蔵の里としてその功績を称え、北広島市の観光振興と活性化に寄与することを目的とする。
過去の活動実績	2017年5月14日「NP0法人クラーク博士別れの地・久蔵の里普及促進会」設立総会 2017年度:講演会4回、シンポジウム1回、会報発行4回 2017年7月3日 NP0法人資格取得 2018年2月「クラーク博士小伝」「中山久蔵翁小伝」「アンビシャス基金のお願い」発行 2018年度:講演会3回、バスツアー1回、会報発行3回 2019年度:講演会2回、パネルディスカッション1回、バスツアー1回、会報発行4回 2020年度:(コロナ禍のため講演会・バスツアーは中止)、会報発行3回
市関係希望部署	教育部